



いづみ 泉 議員
ゆみ 愉美 議員

食料品が
高いので家庭菜園
がんばります

問 災害時の備えは十分か

町長 さまざまな備えに努めていく

まちの備蓄状況は

問 備蓄品の点検方法は、

町長 防災担当職員が月に一度程度防災倉庫へ出向き、全ての備蓄品を点検している。

問 乳幼児用のおしり拭き、液体ミルク、離乳食などの備蓄がないが、品目の見直しの必要性はないか。

町長 女性や乳幼児のための備蓄品は、さまざま揃えるよう努めたい。

問 避難所の夏の暑さ、冬の寒さへの準備は、

町長 多くの施設で冷房設備を整備する。冬の備蓄としてジェットヒーター、ポータブル

ストーブ、発電機、毛布、アルミ型保温シート、防寒着を揃えている。

町長 住民参加の防災訓練や広報での特集記事の掲載、町公式ラインでの周知をしている。

町長 個別スペースを作る想定で簡易テント、段ボール間仕切りを準備している。

町民の防災意識は

問 防災意識向上のための取り組みは、

町長 土のうは地域の会館に備えているが、備蓄品はほぼゼロである。道路寸断や孤立化の心配もあるので、今後検証する必要がある。



問 広域行政の今後のあり方は

町長 役割分担し、活性化を図る

これまでの成果

問 北見地域定住自立圏は今年で5年が経過するが、具体的な成果は、

は非常に大きく、人口の多い所に施設が集中するのは自然の流れである。

町長 北見地域基幹相談支援センター「ささえーる」、北見地域成年後見中核センターを設置した。

今後のあり方

問 中心市への機能集中で、周辺4町の衰退にならないか。

スキルアップ目的の合同研修や大規模災害を想定した断水訓練も実施した。

機能の集中に懸念は

問 ほとんどの機能や施設が北見市に集中しているが、町民の利便性に問題はないか。

町長 中心市の都市機能を周辺4町が利用していく協定なので、役割分担をしながら地域全体の活性化が図られるよう、圏域全体で共有していく。

町長 単独でその機能を全て満たすには莫大な費用がかかる。

広域でやる意味合い



泉議員の一般質問を視聴できます